



1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1190600294		
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・春日部やなか		
所在地	埼玉県春日部市大場675-1		
自己評価作成日	2022年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケアシステムズ		
所在地	東京都千代田区麹町1-5-4-712		
訪問調査日	令和4年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設ではコロナウイルスによる規制が長引く中で施設内でのクラスター発生を経験しました。この経験で感染症への対応方法を更に学ぶと共に、スタッフのチームケア力も向上することが出来ました。

面会を規制していた厳しい状況ですが、ご家族様や医療関係者とのご相談や情報交換の機会が増え信頼関係を深めることが出来ました。

事業所理念の三本柱である「お一人お一人のその人らしさを尊重し支援を行います。」「安全と安心で笑顔の生活を支援します。」「ケアスタッフは常に協力し合い支援の質の向上に努めます。」を厳しい状況の中でも、実践する事が出来ました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業者内での新型コロナウイルス発生によって、家族との面会などにより規制をかけたが、連絡、相談、報告を親密に行う対応によって、家族との信頼関係を築くことができた。また、医療機関との連携の大事さを職員間で感じることができた。事業所理念の再確認を職員間で行い、経験豊富な職員がチームワークの大切さを感じて支援に反映させるように努めている。アセスメントの聞き取りや日々の利用者の様子などから、利用者のパーソナリティに関わる内容を職員間で共有し、利用者が不穏な状態の際には、職員間で連携しながら対応するようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに理念を掲示し、常に確認できるようにしています。またスタッフ会議やフロア会議の際に確認し理念に沿った支援の提供に努めています。	理念については職員会議、フロア会議で共有し、さらに個別にも管理者が事業所理念の大切さを伝え、全職員が同じ方向で理念に沿ったケアを目指し実践に繋げることができるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症拡大防止のため、ボランティアの協力などを控えています。運営推進会議や家族会も中止となり、施設の様子やご利用者様の日常を写真などを添えてお伝えしています。	コロナ禍で外出や交流を控えている中でも近隣の住民が庭の花を届けてくれることもあり、個別に散歩に出かけた際に挨拶を交わすように努め、地域の一員であることを感じられるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	リモートでの施設見学や電話でのお問い合わせやご相談に対応しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症拡大防止のため、開催を見合わせていますが、施設の様子やご利用者様の様子を写真や文章でお伝えしご意見を伺うようにしています。	運営推進会議は2年以上中止を余儀なくされているが、参加していた役所担当者や地域包括、町会などにホームの様子などを伝え、議題の内容について意見をもらい、いつでも再開できるように準備している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	重大事故の発生や個々のご利用者様やご家族様の状況によっては行政への報告や相談を行っています。	役所主催のグループホーム連絡会にリモートで参加したり、ホームの現状報告や相談などで定期的に役所担当課に出かけたりして、意見をもらい事業所運営に生かすように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月1回研修を年2回行い身体拘束による心身に及ぶ悪影響や禁止となる具体的な行為について学んでいます。重ねて日頃のケアの振り返りを行っています。	定期的に身体拘束研修を行い振り返りを行っているほか、業務中でも職員が不安に思った事はその場で話し合い解決に努めるとともに職員全員で共有し、身体拘束の無いケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を年3回、研修を年2回行い正しい知識を得ています。またスタッフ間で実務を通し互いに発言や行動を注意し合える環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々のご利用者様の背景や取り巻く環境を理解し、必要に応じて上司やご家族様、行政を含めて相談し、協力体制を作っています。すべてのスタッフが制度の理解を出来る様に会議で取り上げるなどしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際には十分時間をかけ重要事項の説明を行い、解り難い所は質問をお受けし不安や疑問を解決しご理解・ご納得を頂いたうえで手続きを行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご面会の自粛を長期にわたりお願いしていますが、条件付きで施設前庭やガラス越しでのご面会をして頂いています。ご利用者様やご家族様からのご相談やご要望にはご意見が伺えるようお便りにてご意見を伺っています。	条件付きではあるが家族面会を再開している。利用者意見は担当職員が確認、家族意見は面会時に管理者が対応し、会議で検討のうえ事業所運営に反映している。ターミナル利用者家族には、居室での面会を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議では意見交換や発言の場を設け、また日常の中で気付いたことや提案を気軽に発言できる環境づくりに努めています。	職員の退職は少なく職員間のコミュニケーションも良好であり、会議録からも活発な意見交換が行われていることが会議録から確認できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲的に職務に取り組むことが出来る様に環境の整備や資格取得の案内を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に介護初心者への対応をマニュアル化し担当者とユニットのチームが全体で見守り育成していくシステムが出来ています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にはグループホーム連絡会が有りますが、その連絡会では現在、FAXでの質問や意見集約、ZOOMを利用した意見交換が行われ参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時や実態調査に於いて生活歴や意向・不安などを伺い、入所後の観察を更に重ねることで安心して生活して頂けるようなサービスを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の折にはご家族様の不安や要望を伺い、柔軟な対応が出来る様に努めています。また入所後も来所時や電話にてご家族様の思いを伺い職員間で共有しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時や実態調査で情報を得る際、導入できる他のサービスも紹介させて頂き、必要に応じてご利用いただけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の「出来る事」「出来ない事」を見極め、自立心を損なう事の無い様に洗濯物畳みや食器拭き等の作業を手伝って頂き生活への参加をして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症拡大防止のため、面会の自粛にご協力を頂いていますが、必要品のお届けや通院の付き添いなどはご家族様のご協力を頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症拡大防止のため、面会の自粛にご協力を頂いていますが、電話にてご本人様と会話をして頂くなどしています。またホームページにブログ形式で日常の様子を報告しています。	家族契約の携帯電話で知人と話をしたり、友人と手紙のやり取りを行ったりできるように支援をしている。コロナ禍ではあるが墓参りに家族と出かけるなど、家族の協力により馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の相性などを考慮し、ホール席の配置を工夫しています。またレクリエーションや作業の際にコミュニケーション作りが出来る様にお声掛けしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退居の際には、その後もご相談頂けるようにお声掛けをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様やご家族様の意向を確認してケアプランの作成を行っています。ご利用者様の変化やケアカンファレンスの実施により必要と思われる時は柔軟に対応できるようにスタッフ間での話し合いやケアプランの見直しをしています。	入居時には基本情報や利用者・家族の意見などからアセスメントシートを作成し、意向をケアプランに反映している。また、意思疎通が難しい利用者は、事業所生活での言動や様子などから意向を汲み取り情報を得て生活記録に記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査に於いてサービスの利用状況や経過、生活歴を把握し、入居後もご利用者様やご家族様からの情報を積み重ね職員間での共有をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事業所理念である「お一人お一人のその人らしさを尊重した支援を行います」を実行するため、ご利用者様個々の小さな変化を見逃さず対応できるように申し送りや支援経過、生活記録に残し、情報共有やケアプランに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様やご家族様の意向を踏まえ、毎月のケアカンファレンスにおいて近況を把握・共有し、スタッフ間での意見交換を行い現状に即したプランの見直しを行っています。	ケアプランの見直し時には、3か月毎のモニタリングと6か月毎のサービス担当者会議を実施している。その際には利用者の意向、家族には電話連絡し意見を聞き、ケアプランに反映させるようにしている。	家族のサービス担当者会議への出席は、コロナ禍のため控えている。また、利用者自身の出席もないため、コロナ禍でも双方、出席できるような工夫の検討が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の様子を記録に残し、日々の細かな気づきについてはスタッフ間での申し送りをを行い情報共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本部健康増進サービス課によるリモートや訪問による運動指導や香油を使ってのリンパマッサージ、訪問理美容やリハビリマッサージ等、ご利用者様やご家族様の希望、医療関係者からの意見も伺いながらご利用いただいています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為、ボランティア活動を中止しています。利用可能となった際には地域ボランティア等の協力を得て行きたいと考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医による受診に加え、かかりつけ医への定期受診に通院されているご利用者様もいらっしゃいます。	月2回の内科医、歯科医の往診と毎週での訪問看護、歯科衛生士の訪問にて、連携しながら利用者の健康管理に努めている。希望があれば担当医の変更は可能だが、現在では殆どの利用者の担当医は訪問する内科医となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と職員間で連絡ノートによりご利用者様の状況を共有しています。また適切な受診に向け、看護師からの提言を受けたり、病変の爪切りを看護師に依頼するなどしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリーを作成し病院側に情報の提供をして、退院時には看護サマリーや診療情報提供書にて退院後の対応に活かしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に施設の方針について説明をさせて頂いています。またご利用者様の状態に応じて必要と思われるご利用者様やご家族様に主治医との十分なお話を頂いた上で施設としてできるサポートをご案内しています。	重度化や看取りの方針については入居時に重要事項説明書を用いて利用者・家族に説明をしている。また、看取り介護に移行する際には担当医からも直接、利用者や家族への説明を行っている。	重度化や看取りによる医療処置が生じた場合、施設での対応が難しくなる具体的な内容は、ホームページや口頭で説明されているが、重要事項説明書には具体的な内容がない。そのため、書面での配布などが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の体調の急変や事故発生時の対応として連絡網の整備やマニュアルが作成されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に加え、水害発生時の避難経路の作成や備蓄品の整備を行っています。災害時対応の(非常時災害対策計画)を策定しています。	年2回、防災訓練と水害を想定した避難訓練を実施している。その内容は記録として残し、職員間で共有化が図れるように努めている。また、コロナ禍の状況をみながら、自治会などの避難訓練参加の促しを予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の居室小窓には目隠しをし、プライバシーの保護に努めています。また年長者であるご利用者様への尊厳を忘れず対応する事を心掛けています。	利用者の尊厳の尊重や個人情報に関わる内容が含まれる法人内部の研修に、職員間で参加できるよう努めており、身体拘束・高齢者虐待防止委員会が中心となって、職員間での共有化を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類更衣の際はご利用者様の自己決定ができるように選択肢を用意したり、入浴やレクリエーションへの参加も無理強いとにならないように注意しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活のペースを尊重し、自由な行動がとれるように対応しています。お食事やお茶の時間以外は日課を設けず、レクリエーションも自由参加としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様のご協力を頂き、ご利用者様はお好みの化粧品を使われたり、好みの衣類を着用されたりしています。理美容の際もご自身で好みの形を伝えるなどされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お食事レクリエーションやおやつレクリエーションを回数は少ないながらも行うようにしています。	毎月、食事レクリエーションとして利用者と一緒におやつ作りなどの実施をしている。また、事業所の行事やお誕生会に合わせた行事食などの楽しめる食事の提供により、利用者の食に対する意欲の向上に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事や水分の摂取量を記録しています。医療連携課の指導を仰ぎながら栄養やカロリーの調整を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士による月4回の口腔ケアに加え、毎食後のケアを行って頂いています。ご自身でのケアが困難なご利用者様には職員がお手伝いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位保持の可能なご利用者様にはトイレで排泄をして頂き、夜間に関しては歩行力に依りてポータブルトイレ等のご利用を頂いています。ご利用者様個々の排泄パターンを把握し時間を見計らいお声掛けをしています。	排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムに合わせた声掛けや誘導を行っている。それによってリハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。また、移乗介助が可能な利用者ならば、日中はトイレでの排泄を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や廊下歩行、手すりを利用しての下肢運動など個別にお声掛けしています。また、十分な水分の接種をして頂けるように数種の飲み物を用意しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回の入浴を目標としています。気が向かない時には翌日に変更して頂いたり順番を変えてお声掛けをしています。	入浴実施表をもとに、基本、週2回程の入浴を実施している。拒否などがみられた際には、無理な誘導は行わず、その利用者の入りやすいタイミングに合わせるように、時間を置いたり、次の日への変更などの対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の定時巡視と室温や寝具の調整を行っています。ベッド上でのオムツ交換が必要なご利用者様には保水力の高いパッドの活用で交換回数を減らし入眠の妨げを軽減できるよう工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個別に管理し、薬剤師からの説明や質問への回答を得て職員間で共有しています。薬剤は個別にご利用者さんの写真付き個別ケースにより誤薬の防止をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活への参加を感じて頂けるように洗濯物畳みや食器拭きのお手伝いをして頂いています。またレクリエーションとしておやつ作りに参加して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ感染症拡大予防のため、外出の機会が激減しています。レクリエーションとして屋外での花火大会を行い楽しんでいただきました。	外食、買物、初詣、動物園、イルミネーション見学など多くの活動を行っていたがコロナ禍では控えているのが現状となっている。コロナ禍では施設周りを少人数で散歩したり、オーナーの敷地での花火大会などの支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご利用者様には立替金制度をご利用頂き、日用品や衛生品の購入をしていただいています。また外部受診の際に、ご家族様と嗜好品を購入されるご利用者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からのお手紙を受けたり携帯電話を利用されご家族様と会話を楽しまれているご利用者様がいらっしゃいます。また、スタッフルームでご兄弟からの電話を受けるご利用者様もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が居心地の良い空間となるように整理整頓や清潔に心掛け、掲示物を工夫しています。	共有スペースの食堂には、その季節に合わせた飾りをレクリエーション活動で利用者と一緒に制作して飾っている。また、ウイルス除去機能がある最新の空気清浄機を新たに共有スペースへ導入し、稼働させている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様相互の相性を考慮し、ホール席の配置をしています。またADLを考慮し、移動の動線を考慮した配置にも工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前実態調査の際もご利用者様の馴染みのある家具や置物などが持ち込めることをご案内しています。ご家族様の写真を飾られたり寝具を持ち込まれたりして過ごし易さを工夫されている方もいらっしゃいます。	居室には自宅で使い慣れた家具や仏壇などの持ち込みが可能となっている。また、事業所でのイベントの写真やレクリエーション活動で制作したものなども飾って、利用者が落ち着いて過ごせるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の移動には手摺を設置しています。また車椅子を自走される方が安全に移動できるように障害物を置かないようにしています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	コロナ禍により、ご家族様を含むサービス担当者会議が開催できていない為、サービス担当者会議に出席したり意見の交換ができるように工夫が必要である。	ご家族様やご利用者様がサービス担当者会議に出席したり意見の交換ができるように工夫する。	コロナの状況を見ながら、ご家族様やご利用者様にサービス担当者会議への出席依頼を行う。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。